

第4問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜7)に答えよ。(設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。)

(配点 50)

江南^(注1)多^シ竹。其人⁽¹⁾習^ニ於^テ食^ヲ筍^ヲ。每^レ方^ニ春^ノ時^ニ苞^(注2)甲^ヲ出^テ土^{ヨリ}、頭^(注3)角^ノ繭^ヲ

栗^ヲ、率^テ以^テ供^ス採^ル食^ス。或^ハ蒸^シ滌^シ以^テ為^シ湯^ト、茹^(注4)介^ノ茶^ヲ、殄^シ以^テ充^ツ饋^ス。好^シ事^ヲ

者目以清嗜^(注6)不^レ斲^ル方^ノ長^ヲ。故^ニ雖^モ園^(注7)林^ノ豊^ク美^ク、複^ニ垣^ヲ重^ク局^ヲ、主人^(注8)居^ル

嘗^シ愛^ス護^ス及^シ其^ノ甘^シ於^テ食^フ之^ヲ也、剪^ル伐^ス不^レ顧^ル。独^リ其^ノ味^ヲ苦^ク而^{シテ}不^レ入^ル

食^ス品^ニ者^ノ、筍^ノ常^ニ全^ク。每^ニ当^テ溪^ノ谷^ノ巖^(注9)陸^ノ之^ニ間^ニ、散^リ漫^ル於^テ地^ニ而^{シテ}不^レ収^メ

者^ハ必^ズ棄^ル於^テ一^ノ者^也。而^{シテ}二^ノ者^ハ至^ル取^リ之^ヲ或^ハ尽^ス其^ノ類^ヲ。然^{ラバ}三^ノ者^ハ近^シ自^ラ

戕^ス而^{シテ}四^ノ者^ハ雖^モ棄^ル猶^モ免^ル於^テ剪^ル伐^ス。夫^レ物^ノ類^ハ尚^シ甘^ク而^{シテ}苦^ク者^ハ得^ル全^ク。

C
世莫不貴取賤棄也。然亦知取者之不_レ幸_、而偶幸_ニ於棄者_。

D
豈莊子所謂以無用為用者比耶。

(陸樹声『陸文定公集』による)

(注) 1 江南——長江下流の地域。

2 苞甲——タケノコの身を包む一番外側の皮。

3 頭角繭栗——子牛の生えたばかりの角のような形をしたタケノコの若芽。「繭栗」は「まゆ・くり」のような小さな形をいう。

4 蒸淪以為湯——蒸したり煮たりして、スープにすること。

5 茹介茶筴以充饋——「茹介」はタケノコの穂先の柔らかい皮、「茶筴」は茶。それらを食卓にならべることをいう。「饋」は食事のこと。

6 清嗜——清雅なものへの嗜好。

7 園林豊美、複垣重扇——幾重もの垣根や門扉をしつらえた美しい庭園。

8 居嘗——平常。

9 巖陸——山の中。

問 1 傍線部①「習」・②「尚」の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答

番号は

29

30

(1)

29 「習」

- ⑤ 習練する
④ 習慣としている
③ 習得する
② 弊習としている
① 学習する

(2)

30 「尚」

- ⑤ 崇拜する
④ 保全する
③ 尊重する
② 思慕する
① 誇示する

問2 傍線部A「好事者目以清嗜不斬方長」の返り点の付け方とその読み方として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- ① 好_レ事者目_ニ以清嗜_一不_レ斬_レ方_レ長
事を好む者以て清嗜^{せいし}なるを目し長きに方^{なら}ぶを斬^とらず
- ② 好_レ事者目以清嗜不_レ斬_ニ方_レ長_一
事を好む者目して以て清嗜なるも方^まに長ずるを斬らず
- ③ 好_レ事者目_下以_ニ清嗜_一不_と斬_ニ方_レ長_一
事を好む者清嗜を以て方に長ずるを斬らずと目す
- ④ 好_レ事者目_ニ以_ニ清嗜_一不_レ斬_レ方_レ長_一
事を好む者目は清嗜を以てし長きに方ぶを斬らず
- ⑤ 好_レ事者目_ニ以_ニ清嗜_一不_レ斬_ニ方_レ長_一
事を好む者目するに清嗜を以てし方に長ずるを斬らず

問3

空欄 I

II

III

IV

に入る語の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号

は 32。

- | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| I | I | I | I | I |
| 甘 _キ | 苦 _キ | 苦 _キ | 甘 _キ | 苦 _キ |
| II | II | II | II | II |
| 甘 _キ | 甘 _キ | 苦 _キ | 苦 _キ | 甘 _キ |
| III | III | III | III | III |
| 苦 _キ | 苦 _キ | 甘 _キ | 苦 _キ | 甘 _キ |
| IV | IV | IV | IV | IV |
| 甘 _キ | 甘 _キ | 苦 _キ | 甘 _キ | 苦 _キ |

問4 傍線部B「猶免於剪伐」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

- ① きつと切り取られるのを避けるにちがいない
- ② 依然として切り取られることには変わらない
- ③ 切り取られることから逃れようとするだろう
- ④ まだ切り取られずにすんだわけではないのだ
- ⑤ 切り取られずにすんだのと同じようなことだ

33

問5 傍線部C「世莫不貴取賤棄也」の書き下し文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答

番号は

34。

- ① 世に取るを貴び棄つるを賤しまざるは莫し
- ② 世の貴を取り賤を棄てざるは莫かれ
- ③ 世に貴は取られ賤は棄てられざるは莫し
- ④ 世の貴を取らず賤を棄つること莫かれ
- ⑤ 世に貴は取られず賤は棄てらるること莫し

問6 本文を論旨の展開上、三つの部分に分けるならば、㉠～㉤のどこで切れるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

35。

- ① ㉠と㉤
- ② ㉡と㉢
- ③ ㉠と㉤
- ④ ㉠と㉢
- ⑤ ㉠と㉡

問7 傍線部D「豈 莊子所謂以無用為用者比耶」の読み方と筆者の主張の説明として最も適当なものを、次の①、

⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

① この文は、「豈に莊子の所謂以て無用の用を為す者をば比へんや」と訓読し、「これがどうして『莊子』のいわゆる『無用ノ用ヲ為ス』ことに喩えることができようか」と述べる筆者は、この苦いタケノコがたどった運命は、無用のはたらきか
けを戒める『莊子』の考え方と正反対のものであったと指摘している。

② この文は、「豈に莊子の所謂無用の用たる者を以て比ふるか」と訓読し、「これこそ『莊子』のいわゆる『無用ノ用タル』
ことよって喩えたものであることよ」と述べる筆者は、この苦いタケノコが、役に立たないことを自覚してこそ世間
の役に立つという『莊子』の考え方を体現したものだとなたえている。

③ この文は、「豈に莊子の所謂以て無用の用を為す者の比ひなるか」と訓読し、「これがどうして『莊子』のいわゆる『以テ
無用ノ用ヲ為ス』ものたぐいであるだろうか」と述べる筆者は、この事例を根拠に、無用のものを撰取しないことが天
寿をまつとうする秘訣だという『莊子』の考え方に反論している。

④ この文は、「豈に莊子の所謂無用を以て用を為す者をば比べんや」と訓読し、「これがどうして『莊子』のいわゆる『無用
ヲ以テ用ヲ為ス』ものに比較することができようか」と述べる筆者は、この事例から、無用のようにみえるものこそ役に
立つという『莊子』の考え方が見失われがちなことを嘆いている。

⑤ この文は、「豈に莊子の所謂無用を以て用と為す者の比ひなるか」と訓読し、「これこそ『莊子』のいわゆる『無用ヲ以テ
用ト為ス』ものたぐいではなからうか」と述べる筆者は、この苦いタケノコのなかに、世間で無用とされるものこそ天
寿をまつとうするのだという『莊子』の考え方を見いだしている。